

性とスーツ

アン・ホランダー著

本書は、地味で保守的だ
とみなされがちな男性用ス
ーツを「セクシーである」
と断言し、一見、男性より

で、ニューヨーク人文科学
研究所の特別研究員を務め
る。本書はジョン・アップ
ダイクら数多くの著名人に

ホランダーによれば、十
八世紀に生まれたスーツの
美の基準は、古代の英雄た
ちのヌード。古典熱の高ま

魅力を伝える力を包み、今
日まで洗練を重ねてきた。
一方、慎みを重んじる女
性は、男性が卒業した装
飾性の高い衣服に固執し続
けてきた。ドレスメーカー
仕立てのフリルやレースで
飾ったロン
グスカート
などは、服

そして現代の欧米では、
再び男性が、かつて男の伝
統でもあった要素「カラフ
ルな色や装身具、長髪など
」を取り入れるようになって
た。人気アーティストが「両
性具有ルック」を好み、ゲ
イの個性的装いも見慣れた
ものになり、性差の枠は打
ち壊されつつある。

固定観念覆すファッション史

一見、荒唐無稽(むけい)
に思える新説も、深い美術
史の知識に根差しており、
読み進むうちになるほどと
思わせる説得力がある。

性服を模倣する」といっ
て近代化されたと指摘す
る。その上、女性の抑圧の
象徴とされてきたコルセッ
トは「快感だった」と言っ
つ。著者のアン・ホランダー

称賛された。モダンアートの
としてのファッションの歴
史を、軽視されてきたスー
ツに光を当てて研究。衣服
の持つパワーや、セクシュ
アリティーとの関係も解き
明かそうとする野心作だ。

る英国で古代ギリシャの大
理石彫刻が、新たな男性美
の基準として脚光を浴び
た。解剖学的人体構造が再
発見され、仕立屋はそれを
衣服に的確に反映させた。

の構造を重視する著者の目
には、立ち遅れた保守的な
服にしか映らない。だが、
それも「男性観・女性観の
変化に歩調を合わせるよう
に変化」し、産業革命も手
伝って近代化していく。

白水社・二八〇〇円

中野香織訳

念を覆す刺激的な美術史家

は、ファッションの固定観

以来、スーツは男性の性的

白水社・二八〇〇円

白水社・二八〇〇円